

〈自分たちでつくるみんなの学校 ～みんなが笑顔になる学校を目指して～〉



成美っ子

学校だより 令和6年度No.9

『多文化共生』

—お互いの文化的ちがいを認め合い、同じ地域社会で協力しあって生きていくこと—

外国人指導教室担当 土谷 崇

近年、身近な場所で、外国人を見かけることが多くなりました。それは、日本企業の人手不足を解消するために、国が外国人労働者を積極的に受け入れて、日本で暮らす外国人が増えたからです。現在、日本で暮らす外国人は、200万人を超えました。日本だけでなく他の国でも、人・もの・お金・文化等で、さまざまな変化が起っています。それらの変化には、よい点も悪い点もあります。悪い点ばかりに注目して、お互いの文化の違いを理解せず、相手を受け入れないことは、差別につながります。国籍や民族にこだわらず、同じ地域で暮らす人が、仲よく生活していくためには、互いの文化に対する理解と歩み寄りが必要です。このことを多文化共生といいます。

多文化共生で生まれる「よい点」

- ・ 外国人労働者が増えることで、人手の不足している日本の仕事が支えられる。
- ・ 多様な人や文化と出会うことで、新しい学びが生まれる。
- ・ 色々な見方・考え方を知り、日本のよさを見直すきっかけになる。
- ・ 相互理解が深まり、国際的な協力が強化される。

しかし、文化の違いによるよくない点もあります。日本は、今は、まさに多文化共生への過渡期で、日本で暮らしているすべての人が、多文化共生の必要性に気付く時期といえます。

このように外国人の増加で、日本語指導が必要な、外国にルーツをもつ子供が増えたため、日本各地で多文化共生のための取組をしています。それぞれの学校では、子供たちが言葉の壁を乗り越えるために、文書にアンダーライン・日本語ルビ・多言語への翻訳や、やさしい日本語で表現すること等の支援をします。保護者にも、学用品の使用法、購入場所の意味や内容等を分かりやすく伝えるための支援をします。そのため多くの日本の学校では、多文化共生のために、外国人の子供の受け入れ環境の整備と、日本語指導教諭・日本語指導支援員等の充実を求めています。

私たちの成美小学校アミーゴ教室では、ブラジル・フィリピン・中国等の外国にルーツをもつ多くの子供たちが学んでいます。子供たちは、みんな明るくて思いやりがあり、仲良く活動しています。教師と子供・子供同士が関わり、お互いを認め合って過ごすことで、一人一人が着実に成長しています。また、日本のよさも十分に感じ取っています。授業後は、教室の掃除や片付け等のお手伝いを進めます。学習面では、自分の計画を立てて、前向きに取り組む児童が増えています。アミーゴ教室は、日本語だけでなく、日本の習慣やマナーも学びます。つまり、多文化共生を実践し、日本の将来を担う、大切な子供たちの育成を図る学びの場がアミーゴ教室なのです。

